

歴史あふれる旧江差線 レールウォーキング



旧江差線レールウォーキング



記念植樹・追想碑建立



江差線ガイド



懇親会



木古内の江差線ラストランイベント「歴史あふれる旧江差線レールウォーキング」が行われました。

朝から小雨、生憎の曇天でしたが、町内はもちろん、遠く帯広や千歳からも約50名の参加者・・・みなそれぞれの思いで鶴岡駅をスタート。駅ホームにはなんと国鉄時代の駅名看板が設置されていました。（町民の方が保存していた本物の看板）吉堀駅まで新緑に囲まれた約3キロの線路をテクテクと、途中に江差線のガイドもあり、みんな興味津々の面持ちで折り返して鶴岡駅に到着。

約5mのしだれ桜を記念植樹、追想碑の除幕を行い、江差線への想いを新たにしました。懇親会では美味しいジンギスカンあり、江差線クイズや歌謡ショーなどで和気あいあいの一時を過ごしました。みんなて江差線を語り継いでいく・・・その第一歩の始まりです。



廃止から1カ月近くなり、赤くさびた旧江差線の鉄道を歩く参加者たち



思い出踏みしめ 江差線跡を散策

木古内・旧鶴岡—吉堀間

【木古内】JR江差線跡地を歩く「歴史あふれる旧江差線レールウォーキング」（江差線ラストラスト対応委員会主催）が8日、町内の旧渡島鶴岡駅—吉堀駅間で行われた。町内外から集った約50人が、緑深まる風景を楽しみながら往復約6キロの鉄道を散策した。

同委員会はJR江差線木古内—江差間の廃線に合わせたグッズ販売をはじめ、5月11日の最終運行日には

大漁旗を振って乗客を見送るなど、さまざまなイベントを主催。ウォーキングはその最後を締めくくる行事となった。

この日のために旧渡島鶴岡駅ホームには、国鉄時代の駅名看板が一時的に戻され、スタート前に参加者を盛り上げた。一行は、赤くさびたレールや枕木が残る鉄道を2時間ほどかけて往復。途中、レールの刻印からレールの製造年や規格を読み取る方法や、江差線の歴史解説も行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。ウォーキング後は、鶴岡農村公園内で枝垂れ桜の記念植樹や、「江差線追想」と刻まれた石碑の除幕式も行われた。息子と参加した七飯町大中山の主婦、牧野春美さん(36)は「なかなか歩く機会が無い線路を歩いて貴重な経験になった」と話していた。(菊池圭祐)

